

レタスビッグベイン病の汚染程度に応じた防除技術のメニュー化

【研究成果】 淡路のレタス産地において、平成6年からレタスビッグベイン病が発生しました。この病害に対して各種防除技術を確立し、ほ場の汚染程度に応じた対策を体系化しました。

表1 汚染程度に対応した各種防除技術

汚染程度	各種防除技術		耐病性品種の利用			
	基本的な対策(共通)		12月穫り	1月穫り	2月穫り	3月穫り
軽度	排水改善	畦内の土量を多くし、畦を高くする。排水性の悪い圃場は暗渠排水溝を設置する。	プラノ			
	生育の確保	マルチ栽培や大苗定植。				
	pH矯正	媒介菌は高pHを好むため、ピートモス施用などで土壌のpHを低下させる。				
中度	薬剤灌注	定植時、チオファネートメチル水和剤1,500倍液を1㎡当たり1.5L、またはTPN水和剤1,000倍液を1㎡当たり3L灌注する。	エルガント(T-0570)	マリオン(T-0571)	デジロ	
重度	土壌消毒	転作田	太陽熱消毒マルチ処理			
		水稲後	グルリピクリンくん蒸剤、またはカーバムナトリウム塩液剤による土壌くん蒸消毒			

* 土壌くん蒸消毒を行った場合は、慣行品種を利用



トラクター型マルチャーに装着する液剤散布装置の開発



ビッグベイン病の状況

(独)農研機構との共同による強度の耐病性品種を開発



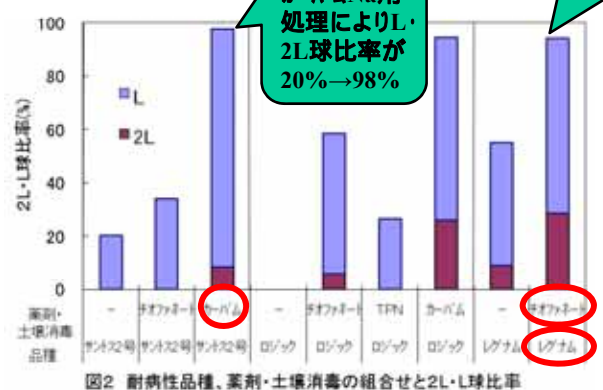
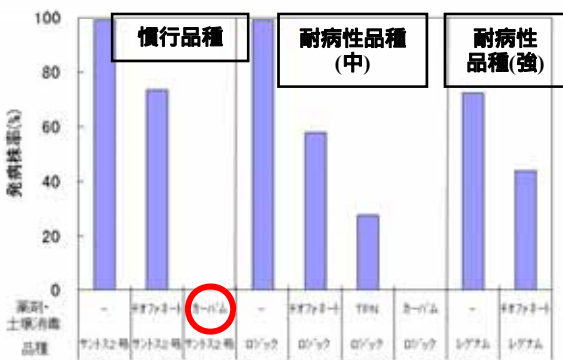
耐病性品種「安濃2号」



高畝

慣行畝

重度の汚染ほ場での品種と薬剤・土壌消毒の組合せ効果の実証



カーバムNa剤処理によりL・2L球比率が20%→98%

耐病性品種(レグナム)と薬剤の組合せにより94%に向上

【技術の活用】 これらの技術は、淡路のレタス産地に広く普及し、安定生産に寄与しています。